

安全データシート (SDS)

作成日 2017年 2月22日

改訂日 2022年 5月 9日

【1. 製品及び会社情報】

製品名 : ケイエスミスト用潤滑油 KSL-3
会社名 : 株式会社ケミック
住所 : 〒594-1144 大阪府和泉市テクノステージ1-2-1
電話番号 : 0725-51-0031
FAX番号 : 0725-51-0033
推奨用途及び使用上の制限 : 噴霧式油性加工液

【2. 危険有害性の要約】

本製品はGHS分類区分に該当しない、または分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル : なし

注意喚起語 : なし

危険有害性情報 : なし

注意書き

[安全対策] : 指定された個人用保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣等）を着用すること。
取扱い後は手や顔などをよく洗うこと。

取扱い後は眼をよく洗うこと。

[応急措置] : 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い時は、医師に連絡する。

飲み込んだ場合 : 無理に吐かせない。

医師の診断／手当てを受ける。

眼に入った場合 : 清浄な水で数分間注意深く洗う。

次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。

その後も洗浄を続ける。

刺激が続く場合は医師の手当てを受ける。

皮膚についた場合 : 多量の水と石鹸で洗う。

皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受ける。

火災の場合 : 消火に粉末消火剤、炭酸ガス消火剤、泡消火剤、散水、噴霧水を使用する。

棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

[保管] : 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管する。

密栓して保管する。

[廃棄] : 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の認可を受けた専門の廃棄物処理業者に
業務委託し、廃棄物処理法及び関係法規・法令を遵守し、適切に処分すること。

【3. 組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別 : 混合物
化学名 : 混合物につき特定できず
主な成分 : 脂肪酸エステル

【4. 応急措置】食用油ベースで吸入、経口による危険性はほとんどないと思われるが、状況に応じ、以下の措置を行う事を勧める。

- 吸入した場合 : 新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い場合は、医師に連絡する。
- 眼に入った場合 : 清浄な水で数分間注意深く洗う。
次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。
その後も洗浄を続ける。
眼刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 口の中が汚染されている場合は水で十分洗う。
無理に吐かせないで、医師の診断/手当てを受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 : 吸入 : 咳、頭痛等が生じる可能性がある。
経口 : 下痢、嘔吐する可能性がある。
皮膚に付着 : 炎症を起こす可能性がある。
眼に付着 : 炎症を起こす可能性がある。
- 応急措置をする者の保護 : 被災者を救助する場合は、【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の適切な保護具を着用する。

- 【5. 火災時の措置】 本製品は消防法、指定可燃物可燃性液体類に該当する。
- 消火剤 : 粉末消火剤、炭酸ガス消火剤、泡消火剤、散水、噴霧水
使用してはならない消火剤 : 棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
- 特有の危険有害性 : 燃焼ガスには、一酸化炭素等の有害ガスが含まれることが予想されるので、消火作業は風上から行い、煙の吸入を避ける。
- 特有の消火方法 : 関係者以外は安全な場所に退避させる。
周辺の設定等に散水して冷却する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火作業は可能な限り風上から行なう。
- 消火を行なう者の保護 : 状況に応じた保護具（自給式呼吸器、防火服、防災面等）を着用する。

- 【6. 漏出時の措置】
- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 本製品は食用油ベースで吸入、経口による危険性はほとんどないと思われるが、可能な限り、漏れた場所の周辺から人を退避させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
風上から作業する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないようにする。
- 回収、中和 : 吸収材（乾燥砂、土、ウエス等）で取り除き、密閉できる空容器に回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険なく出来る場合は、漏出源を遮断し、漏れを止める。
盛土、プラスチックシート等で散乱を防ぐ。
漏出物を吸収材（乾燥砂、土、ウエス等）で取り除き、密閉できる空容器に回収する。
回収物は適切に廃棄処分する。
- 二次災害防止策 : 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

【7. 取扱い及び保管上の注意】

- 取扱い
- 技術的対策 : 指定数量以上の量を取り扱う場合は、法で定められた基準を満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。
本製品は食用油ベースで吸入、経口による危険性はほとんどないと思われるが、必要に応じ

【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の設備対策を行ない、保護具を着用する。
 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
 容器を転倒、落下、衝撃、引きずりなどの乱暴な取扱いをしない。
 容器は必ず密閉する。

局所排気・全体排気：【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の設備対策を行なう。

安全取扱い注意事項：本製品は食用油ベースで吸入、経口による危険性はほとんどないと思われるが、必要に応じ
 個人用保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣等）を着用する。
 取扱い後は手や顔などをよく洗う。
 取扱い後は眼をよく洗う。

保管

技術的対策：保管場所の床は、床面に水が浸入／浸透しない構造とする。
 保管場所には、必要な採光、照明及び換気の設備（防爆タイプ）を設ける。

保管条件：直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。
 容器は密栓し、保管場所に施錠する。
 消防法等関係法令・法規に規定された基準に従って保管する。
 混触危険物質と同一の場所に保管しない。

混触危険物質：【10. 安定性及び反応性】を参照。

容器包装材料：製品使用容器に準ずる。

【8. 暴露防止及び保護措置】

管理濃度：データなし
 許容濃度：データなし
 設備対策：取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
 空気中の濃度を暴露限界以下に保つ為に排気用の換気を行なう。
 蒸気又はミストが発生する場合は、全体又は局所排気用の設備（防爆タイプ）を設ける。

保護具

呼吸器系：必要に応じ、有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器を使用する。
 手：不浸透性（耐油、耐薬品、耐溶剤）の保護手袋を使用する。
 眼：保護眼鏡（普通眼鏡、側板付き普通眼鏡、ゴーグル型）を使用する。
 皮膚及び身体：不浸透性の保護服、保護長靴、保護前掛け等を使用する。

衛生対策：取扱い後は手、顔などをよく洗う。
 取扱い後は眼をよく洗う。

【9. 物理的及び化学的性質】

外観：黄色液体
 臭気：脂肪酸臭
 PH：データなし
 融点：データなし
 沸点：データなし
 引火点：約258℃（クリーブランド開放式）
 自然発火温度：データなし
 爆発範囲：データなし
 蒸気圧：データなし
 蒸気密度：データなし
 比重：0.88～0.92 g/cm³（25℃）
 溶解度：水に不溶（0.1%以下）
 動粘度：約20mm²/S（40℃）

【10. 安定性及び反応性】

安定性：通常の使用環境の温度条件下で安定。
 危険有害反応可能性：水とアルカリ又は酸の存在により加水分解反応を起こす。
 強酸化性物質と反応を起こす可能性がある。

避けるべき条件 : 混触危険物質との接触。

混触危険物質 : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質

危険有害な分解生成物: 燃焼ガスには、一酸化炭素等の有害ガスが含まれることが予想されるので、消火作業の際は、煙の吸入を避ける。

【11. 有害性情報】

急性毒性 : 経口 : 製品自体のデータはないが成分・配合量などから判断してLD₅₀=5000mg/kg以上(ラット)と推測される。

経皮 : 製品自体のデータはないが成分・配合量などから判断してLD₅₀=5000mg/kg以上(ラット)と推測される。

吸入(ミスト) : 製品自体のデータはないが成分・配合量などから判断してLC₅₀(4時間)=5mg/L以上(ラット)と推測される。

皮膚腐食性/刺激性 : 製品自体のデータはないが成分・配合量などから判断して、長期間または繰り返し接触した場合には、皮膚脱脂による皮膚炎を起こす可能性があるとして推測される。

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 : 製品自体のデータはないが成分・配合量及び皮膚刺激性などから判断して、刺激性を示す可能性がある。

呼吸器感作性 : データなし

皮膚感作性 : データなし

生殖細胞変異原性 : データなし

発がん性 : データなし

生殖毒性 : データなし

特定標的臓器/全身毒性(単回暴露) : データなし

特定標的臓器/全身毒性(反復暴露) : データなし

誤えん有害性 : データなし

【12. 環境影響情報】

生態毒性

水生環境急性有害性 : データなし

水生環境慢性有害性 : データなし

残留性/分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

土壤中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : データなし

【13. 廃棄上の注意】

残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。

都道府県知事などの認可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方自治体が行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合は、処理業者等に危険性、有害性を十分告知する。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去し、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行なう。

空容器を溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。(残留物が爆発・引火する恐れがある。)

【14. 輸送上の注意】

国際規制

国連番号 : 該当しない

国連分類 : 該当しない

容器等級 : 該当しない

国内規制

陸上輸送 : 消防法 指定可燃物(可燃性液体)

海上輸送 : 船舶安全法 非危険物

航空規制 : 航空法 非危険物

特別な安全対策 : 消防法、その他関係法令の定めるところに従う。
輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
衝撃、転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。
容器が破損しないように、転倒、落下、衝撃、引きずり等の乱暴な取扱いは避ける。

【15. 適用法令（日本）】

化管法（P R T R法） : 該当しない
労働安全衛生法 : 該当しない
毒物及び劇物取締法 : 該当しない
消防法 : 指定可燃物（可燃性液体）
廃棄物処理法 : 産業廃棄物
火薬類取締法 : 該当しない
高圧ガス保安法 : 該当しない
船舶安全法 : 非危険物
航空法 : 非危険物

【16. その他の情報】

この「安全データシート」は当社の製品を安全にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常的な取扱いを対象にしたものです。本製品の使用方法については、この「安全データシート」をご参照の上、ご使用者様の責任においてお決め下さい。

記載内容は、N I T E（独）製品評価技術基盤機構）のGHS危険有害性分類事業にて公開されたデータや原材料のSDS等、作成日又は改訂日における弊社の最善の調査で得た知見に基づき作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも十分ではなく、記載のデータや危険有害性の評価に関して完全さを保障するものではありません。記載内容のうち、成分及び含有量、物理化学的性質等の値は保証値ではありません。

「安全データシート」の内容は、法令の改正や新たな知見に基づき改正される場合があります。